

# 特集「洗練された社会を作り上げるモバイル通信と高度交通システム」の編集にあたって

渡邊 晃<sup>1,a)</sup>

モノのネットワークの台頭により、ネットワークの負荷はますます増していくことが予想されている。携帯電話会社の将来予測によると、2020年の移動通信のトラフィックは、2010年比で、500倍～1000倍になるとされている。トラフィックの中には、たとえば車の走行情報、天候・路面状況情報など、ITSと密接に係わる情報も含まれている。これらの情報を扱う技術は次世代ユビキタス社会を実現するために不可欠な分野となっている。

モバイル通信およびITSに関するテーマに関しては、情報処理学会のモバイルコンピューティングとユビキタス通信(MBL)研究会と高度交通システムとスマートコミュニティ(ITS)研究会が中心となり、これまでに毎年100～150件の論文が研究会で発表されている。また、DICOMO2014シンポジウムでは、295件の発表のうち、68件がMBLとITSに係わる発表となっており、今後も広がりを見せることが想定される。MBLとITSに係わる論文を一括掲載することにより、この分野の研究を推進し、その発展に寄与することは情報処理学会として意義のあることである。本特集は、このような研究推進を目的とし、MBL研究会とITS研究会が共同で企画したものである。

本特集号の編集経緯は、以下のとおりである。

論文募集公開：2014年1月

投稿締切：2014年3月31日

第1回特集委員会：2014年4月8日

第2回特集委員会：2014年6月10日

第3回特集委員会：2014年9月19日

投稿数16件に対し、慎重に審議した結果、条件付き採録が8件、最終的には5件の論文が採録された。採録率は約31%である。投稿論文の内訳は、ITSアプリケーション5件、位置/行動推定4件、アドホック/センサネットワーク3件、車車間通信2件、スマートフォンアプリケーション1件、プライバシー保護1件で、このうち採録されたのは、位置/行動推定3件、ITSアプリケーション2件である。

投稿数が予想を下回ったのは残念であるが、類似のテーマでの特集論文が並行していたことも影響したものと考え

られ、次回以降の反省材料としたい。条件付き採録論文の一部が不採録となっており、採録条件の設定において、著者に分かりにくい条件になっていた可能性があることも反省材料である。

採択率に関しては、研究会での発表を通して十分な議論がなされることにより向上するものと考えている。MBLでは合宿形式でのディスカッションの機会を設けるなど通常時の研究会での活動から採択率向上を目指している。読者の方々にも、研究会にて積極的に発表されることを期待している。

編集委員会としては、モバイルコンピューティング分野、および高度交通システム分野の多岐にわたる技術の中から、注目されている分野の技術に関して、質の高い論文を採録できたと考えている。MBL/ITSの幅広い分野での投稿があったことから、特集号の目標は達成されており、今後も本特集号を継続していく予定である。

最後に、幹事および編集委員の方々と、投稿していただいた会員の皆様に御礼を申し上げる。

「洗練された社会を作り上げるモバイル通信と高度交通システム」特集号編集委員会

- 編集長  
渡邊 晃 (名城大学)
- 幹事  
内藤克浩 (愛知工業大学)
- 編集委員  
石原 進 (静岡大学), 岩本健嗣 (富山県立大学), 小川将克 (上智大学), 小野里好邦 (群馬大学), 柿崎淑郎 (東京電機大学), 川股幸博 (日立製作所), 木谷友哉 (静岡大学), 清原良三 (神奈川工科大学), 窪田 歩 (KDDI研究所), 齋藤正史 (三菱電機), 重野 寛 (慶應義塾大学), 寺岡文男 (慶應義塾大学), 梅津高朗 (滋賀大学), 深澤紀子 (鉄道総合技術研究所), 南 和宏 (統計数理研究所), 森野博章 (芝浦工業大学), 屋代智之 (千葉工業大学), 安本慶一 (奈良先端科学技術大学院大学)

<sup>1</sup> 名城大学  
Meijo University, Nagoya, Aichi 468-8502, Japan  
a) wtnbakr@meijo-u.ac.jp